

■平和小学校の実践

(1) 研究内容

札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の施設見学と同施設の体験プログラムを活用し、アイヌ民族の歴史や文化などについて、アイヌ民族の方から直接学ぶ体験学習を行う。特にアイヌ文様づくりは図工科などとの合科学習を行い、発展的な学習を志向する。

(2) 学習活動を通して育てたい力

アイヌ民族の歴史や文化についての理解を深め、今に生きるアイヌの人たちの生活や文化を理解し尊重する態度を育てる。また、アイヌ文様づくりの活動から文様の意味や活用、伝承の仕方について理解を深めさせる。

(3) 実践の内容

【実践①】サッポロピリカコタンへ行こう

○ねらい

アイヌの人たちの歴史や文化について、お話を聞き交流や体験活動を行い、理解を深める。

○学習内容

- 1 講話を聞く。歌舞・楽器演奏等の公演を鑑賞する。
- 2 アイヌ古式舞踊や歌を体験する。
- 3 アイヌの子どもの昔遊びを体験する。
- 4 屋内展示物や屋外の展示施設を、解説をしていただきながら見学する。
- 5 質問と自由見学。
- 6 アイヌブックを作ろう。
- 7 サッポロピリカコタンにお礼の手紙を書こう。



【実践②】アイヌ文様の作り方を伝えよう

○ねらい

アイヌ文様の意味や活用の仕方、伝承の仕方について理解を深める。

○学習内容

- 1 「アイヌ民族：歴史と現在」（アイヌ文化振興・研究推進機構作成）を使い、アイヌ文様についての学習を行う。
- 2 保護者公開日の時間に、子どもたちがアイヌ文様づくりを保護者に教え作品をつくる。



(4) 成果と課題

① 成果

- ・「サッポロピリカコタン」の活用によって、アイヌの人たちから直接お話を聞くことができ、歴史や現代の課題など共感的に学ぶことができた。また、歌や踊り、そして遊びの体験活動からは、アイヌ文化について楽しく学ぶことができた。
- ・アイヌ文様づくりは体験プログラムの前後に行った。体験活動の後はよりアイヌ文化への理解が深まり、アイヌ文様づくりにも生かされた。また、保護者へ伝えることも目標にしたことで意欲的に取り組むことができた。

② 課題

- ・本校と施設が離れていることから現地学習として活用したが、条件が許せば継続的な関わりを持ちたい。
- ・今回は4年生の学習として行った。北海道に暮らす子どもたちという点を考えるとアイヌ民族についての学習は1年生から6年生まで教育課程の中に位置付ける必要性を感じた。